

学位論文審査の要旨

| | | | | |
|-------|------------------------------|------------------|-------------------------------------|--|
| 学位申請者 | 横窪 安奈 2019年9月 単位修得退学 | | 論文題目 | 伝統芸道に親しむことを目指したコンピュータアプリケーション |
| 審査委員 | 主 査: | 椎尾 一郎 教授 | インターネット 公表 | 学位論文の全文公表の可否 : 否 |
| | 副 査: | 伊藤 貴之 教授 | | 「否」の場合の理由 |
| | 副 査: | 小林 一郎 教授 | | <input type="checkbox"/> ア. 当該論文に立体形状による表現を含む |
| | 審査委員: | 小口 正人 教授 | | <input type="checkbox"/> イ. 著作権や個人情報に係る制約がある |
| | 審査委員: | 暦本 純一 教授 東京大学 | | <input type="checkbox"/> ウ. 出版刊行されている、もしくは予定されている |
| 学位名称 | 博士 (理学) | | | <input checked="" type="checkbox"/> エ. 学術ジャーナルへ掲載されている、もしくは予定されて |
| (英語名) | (Ph. D. in Computer Science) | | | <input type="checkbox"/> オ. 特許の申請がある、もしくは予定されている |
| | | | ※本学学位規則に基づく学位論文全文の インターネット公表について | |

学位論文審査・内容の要旨

伝統と様式美に裏付けられ伝統芸道の代表である茶道・華道・香道は、美的で魅力的である一方、初心者には難解で親みにくい印象がある。学位申請者は、伝統芸道未経験者や初心者らが、伝統芸道に親しむための効果的な手法を明らかにし、伝統芸道への導入を促進するためのコンピュータアプリケーションを複数試作し、ユーザ実験により有用性を確認した。茶道に対してはコンピュータインストールを作成した。華道に対してはARの手法を利用し生花を支援するタブレットPCアプリケーションと、インタラクティブなVR手法を利用し生花をシミュレーションするアプリケーションを作成した。また、香道に対しては組香を体験する香発生デバイスを作成した。これらにより、初心者であっても伝統芸道に親しむことが可能なことを示した。また、開発した生花シミュレーションが華道経験者の練習にも役立つことを示した。本論文は、伝統芸道を身近な存在にするためのコンピュータアプリケーションとその技術利用手法を網羅し、学位申請者が当該分野の第一人者たる研究成果をあげたことを示している。本論文の内容は、原著論文として学会誌に2件掲載されており、情報科学領域の博士論文審査基準を満たしている。また、国内外の査読付き学会において多数の発表を行っている。

これらの研究成果を踏まえて、以下の日程で学位論文審査を実施した。第1回は2019年12月18日にメール審議した。提出された論文の内容および問題点を洗い出し、第2回目以降の審査方法(学位申請者本人を呼び出しての審査方法)について審査委員間で合意をとった。第2回は2020年1月9日、第3回は2020年2月3日に開催した。いずれも学位申請者による40分程度の研究内容説明の後、質疑を取り交わし、論文内容の修正や改善について学位申請者に指示を出した。その後、2020年2月27日に、公開発表会および最終試験を実施した。審査委員および出席者からの研究内容全般にわたる幅広い質問に対して、学位申請者は的確に回答し、本論文の研究内容の完成度の高さおよび、本研究分野における見識の広さと深さを示した。以上の結果から審査委員は、最終試験を合格と判定した。第4回は2020年2月27日、公開発表会・最終試験後に開催し、公開発表会および最終試験の内容を踏まえて、論文内容を最終確認した。以上の結果から本審査委員会は、本論文が人間文化創成科学研究科の学位、博士(理学) Ph. D. in Computer Science の学位を受けるに相応しいと判断した。